

農作物の生育状況、今後の見通しと対策(12月)

鳥取県農業気象協議会  
(鳥取県農業振興局経営支援課 農業普及推進室 まとめ)  
令和7年12月15日 現在

作物名	生育状況	今後の見通しと対策	
作物	大豆	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部で、生育期間中の干ばつによる水分ストレス等により、子実水分低下や落葉・木化等登熟過程の遅れが見られたが、収穫は概ね終了した。</li> <li>雑草発生が多く収穫を断念したほ場もあったが、管理が適正であったほ場は着実が良好で、中粒傾向であるものの子実品質は良好であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部、極端な晩播や登熟遅れによって収穫作業が残っている場合は、冬期の気温低下により、茎葉の木化と風雨による落葉が進み、晴れ間の乾燥した寒風によって子実・茎葉の水分が急激に低下する可能性があるため、子実の品質状況を確認しながら刈取る。</li> </ul>
	麦	<ul style="list-style-type: none"> <li>二条大麦は、11月初旬は降雨があったが、排水良好なほ場では11月上旬の好天日で播種作業が進み、その後の出芽と生育は概ね良好である。農業試験場品種試験ほ場も11/7に播種作業を実施し、現時点で遅害も見られず、出芽・苗立ち及び初期生育は順調である。現地の一部排水が不良なほ場では、11月下旬播種のほ場において、出芽・苗立ちの遅れが見られており、遅害が懸念される。</li> <li>小麦も、傾向及び生育状況は二条大麦と同様であるが、10月中下旬の早期播種が散見される。作付品種は「はる風ふわり」が中心であり、一部で「ゆめちから」「ふくさやか」が見られる。</li> <li>もち性二条裸麦であるキラリモチが国府で播種されており、出芽、生育ともに概ね順調である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>排水を促しながら年内生育量を確保する。</li> <li>雑草の発生が多いほ場は、時期を失しないように茎葉処理剤を散布する。</li> <li>【降雪が続く場合】</li> <li>雪融け後は排水溝を点検し、明きよと排水溝を連結する等ほ場の排水に努める。</li> <li>積雪期間が長期にわたった場合は、雪解け後にできるだけ早く窒素肥料を追肥し、生育の回復に努める。</li> <li>病害は、根雪が100日を超えると多く発生する。根雪が長引くと予想される場合には、融雪資材(育苗培土等の黒っぽい資材)の散布を行う。</li> </ul>
果樹	ナシ	<ul style="list-style-type: none"> <li>晩生ナシの収穫が終わり、せん定作業が行われている。</li> <li>夏季にハダニ類が大発生して葉焼けを起こした「新甘泉」園では、花芽(来年実をつける芽)が少ない。</li> <li>鳥取県病害虫防除所のウサギカメシの越冬成虫数調査では、10地点平均でトラップあたり14.5頭であり、前年(4.4頭)、平年(9.4頭)よりも多かった。なお、カメシが大発生した令和6年の前年(令和5年)の越冬成虫数調査結果は26.3頭である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>積雪に備え、樹の点検を行い、不良箇所の補修を行う。</li> <li>積雪が多い地域では、太まかな枝の間引きを早めに行うとともに、モウソウ竹などの突き上げ柱を入れて損傷を防ぐ。</li> <li>病害虫の越冬量を減らすため、罹病した枝葉の処分を行う。</li> <li>かん水施設や防除用の配管などは水抜きを行い凍結による破損を防ぐ。</li> </ul>
	カキ	<ul style="list-style-type: none"> <li>晩生の「富有」「花御所」の出荷が概ね終了した。</li> <li>収穫が終了している「輝太郎」は、カメシ被害・裂皮等により大幅な減収となった令和6年産より出荷量は増加。しかし、西部地区での霜害、裂皮等の影響から、成園化が進んでいるにも関わらず、令和5年産の出荷量に至らなかった。</li> <li>同様に収穫が終了している「西条」で、面積減、西部地区の霜害、軟果等により、出荷量は令和6年産を下回った。</li> <li>鳥取県病害虫防除所のウサギカメシの越冬成虫数調査では、10地点平均でトラップあたり14.5頭であり、前年(4.4頭)、平年(9.4頭)よりも多かった。なお、カメシが大発生した令和6年の前年(令和5年)の越冬成虫数調査結果は26.3頭である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>積雪に備え、枝折れ防止のためモウソウ竹で大枝の突き上げを行う。</li> <li>炭疽病の被害園ではせん定時に被害枝の除去および持ち出し処分を徹底する。</li> <li>カイガラムシ等の対策として、冬季に粗皮削りを行う。</li> </ul>
	ブドウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>せん定作業が行われている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>積雪に備え、枝折れ防止のため早めにせん定を終わらせる。</li> <li>次年の栽培に備えて、ハウスや樹の点検を行い、不良箇所の補修を行う。</li> </ul>
野菜	白ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> <li>【秋冬ねぎ】</li> <li>夏季の高温の影響のため、出荷開始は遅れていたが、現在は出荷最盛期となっている。階級は2L、3Lが多く昨年より太物が多い。一部で強風等により葉折れが発生したが、出荷に影響はない。</li> <li>ポトリ葉枯病、黒斑病の発生が散見されるが被害は少ない。</li> <li>【春ねぎ】</li> <li>概ね順調に生育している。</li> <li>3月どり作型では最終最終土寄せを行っているところもある。</li> <li>【夏ねぎ】</li> <li>6月どり作型(トンネル・無トンネル)は、定植中～定植終了。</li> <li>トンネル栽培では、支柱の設置と年内に被覆作業を行っている。</li> <li>7月どりは、播種育苗中～12月年末頃まで播種作業が続く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>雪対策の実施。(ハンドを張り葉折れ防止、降雪前の計画的な収穫、株元までの土寄せ)</li> <li>小菌核腐敗病、黒腐病の防除を徹底する。</li> </ul>
	ブロッコリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>生育、出荷ともは順調。</li> <li>越冬栽培(3、4月どり)の定植が始まっている。</li> <li>病害虫による被害は目立ったものはないが、一部で黒斑細菌病の発生が散見される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後出荷は平年並みに推移する見込みである。</li> <li>花蕾腐敗病、べと病、菌核病の防除を徹底する。</li> </ul>
	ミニトマト	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏季の高温による不着果や着果不良等により出荷量は減少したが、単価高で販売額は前年よりやや増加した。</li> <li>出荷量は前年比95%、販売額105%、平均単価110%。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>12/22で選果場は終了予定。(中部)</li> </ul>
	にんじん	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏季の高温で発芽は遅れたが、その後は順調に生育し出荷は11/14から、淀江は12/9頃から開始。</li> <li>病害虫の発生は特に問題はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>—</li> </ul>
	らっきょう	<ul style="list-style-type: none"> <li>(東部)</li> <li>気温の低下とともに生育はやや停滞の傾向。</li> <li>ハモグリバエの発生は収まっているが、黒点葉枯病の発生が続いている。また、11月中旬から12月上旬にヨトウムシの発生がみられた。</li> <li>(中部)</li> <li>生育は順調。11月中旬から黒点葉枯病が発生し始め、発生時期は半月から1か月程度遅い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>白色疫病の予防防除を徹底する。</li> </ul>
	イチゴ	<ul style="list-style-type: none"> <li>出荷は11月中下旬に開始された。夏季の高温の影響で収穫開始は平年よりも遅い傾向。</li> <li>育苗中から定植後に炭疽病等の発生により補植を行ったほ場では収穫の遅れがみられる。</li> <li>一部でアブラムシ、ハダニ、ホコリダニの発生がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬季に向けたハウスの雪害対策を徹底する。</li> <li>収穫開始時期の遅れから、年内収量は例年より少なくなる見込み。</li> <li>気温が低下してくる中で、夜間の保温に努めるなど温度管理に注意する。</li> <li>アブラムシ、ハダニ、ホコリダニの防除を徹底する。</li> </ul>
花き	シンテッポウユリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>【ハウス抑制作型】</li> <li>累計出荷本数は、目標6万5千本を超えたが、栽培面積の縮小により前年の半分程度の出荷量となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出荷は、1月末まで続く見込み。</li> <li>ハウスを閉め切って保温に努める。</li> </ul>
	ストック	<ul style="list-style-type: none"> <li>(東部地区)</li> <li>草丈30～40cm程度。一部のほ場で軽度の葉焼けが見られるが、目立った病害虫の発生は見られない。</li> <li>(中部地区)</li> <li>夏秋期の高温により花芽分化が遅れ、出荷量は、SD系、SP系それぞれ目標出荷本数の約3割程度。EOD電照により開花促進を積極的にやっている。</li> <li>日出货量はSD系は日量3万本、SP系は2万本程度。</li> <li>一部圃場で菌核病の発生が見られる。</li> <li>(西部地区)</li> <li>7月下旬播種は大幅に出荷が遅れ、現在も出荷中。8月20日播種の出荷も始まっている。</li> <li>一部圃場で菌核病の発生が見られる。</li> <li>【注】SD系：スタンダード系、SP系：スプレー系</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(共通)</li> <li>凍害対策として日頃から夜間もハウスを解放し、低温に慣らす。</li> <li>ただし、降雪が予想される場合はハウスを閉め、ハウスに雪が積もらないように雪害対策を実施する。</li> <li>ハウス内残渣は速やかに片づけ、灰色かび病、菌核病の防除を徹底する</li> <li>(中部地区)</li> <li>今後も3月まで出荷が続く。</li> </ul>
飼料	イタリアンライグラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>降雨の遅れが原因で遅れていた地域も11月下旬に播種作業が終了した。概ね生育は順調である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>—</li> </ul>
	飼料用トウモロコシ	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部地域で作付けされていた飼料用トウモロコシの2期作の収穫調整が11月下旬から12月上旬にかけて終了した。</li> <li>虫害や天候不順で前年より収穫量は少なかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>—</li> </ul>

【農作業安全について】  
12月から2月は農林水産省が定める「農業機械作業研修実施強化期間」です。  
各地区農業安全・農機具盗難防止協議会(事務局:JA、県農(林)業振興課)を中心に地域等で農作業安全研修を行います。